

# 西区歴史探訪

西区の歴史といえば屯田兵を思い浮かべる人が多いでしょうが、西区の地に人が住み始めたのは遠い昔にまでさかのぼります。大昔の人々が生活していた住居やお墓などを遺跡といい、土器や石器などの道具類を遺物といって、歴史の謎を解く貴重な資料となります。今月は西区から発掘された3つの遺跡を紹介しますので、はるか昔の歴史に触れてみましょう。

内容に関するお問い合わせ

西区総務企画課広聴係

TEL (64) 6925

## 弥生時代がない？

**小** ・中学校の歴史の教科書などで、日本の歴史の始まりであるといわれる旧石器時代から、土器の使用が始まった縄文時代、水田による稲

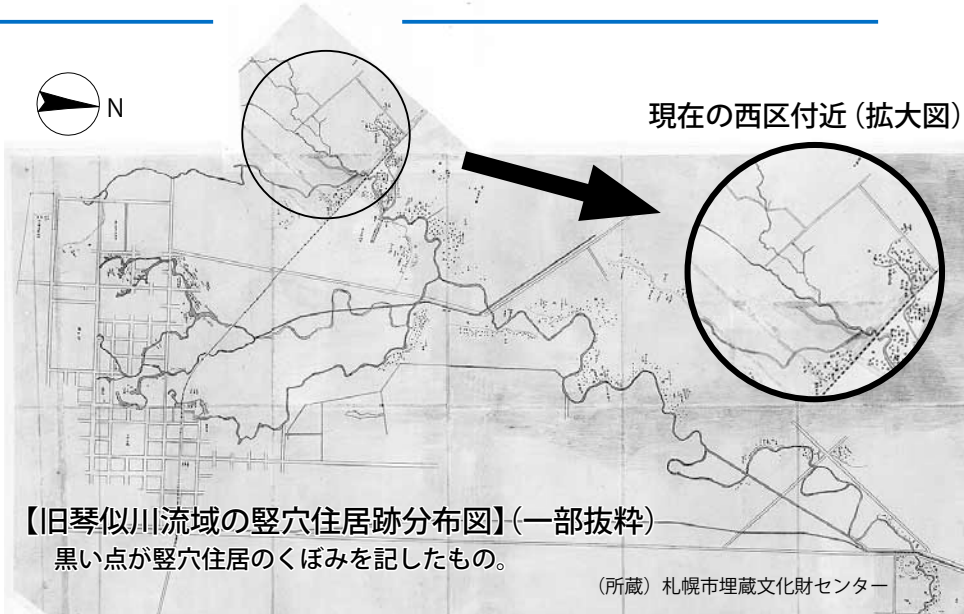
作が始まった弥生時代と続いた後は、古墳・奈良・平安時代と学んだのを覚えていた方も多いでしょう。しかし、本州で水田による稲作が始まり弥生時代に移り変わる頃、北海道では縄文時代と同じような狩猟・採集の暮らしが続いていました。

## 西区は遺跡が多い？

**右** 下の図は、明治時代に札幌史学会などで活躍した高畑宜一氏によって作製された「旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図」と呼ばれているものです。中央区の都心部などから北区麻生付近までにあった擦文時代の竪穴住居の埋まりきっていない

そのため、縄文時代が続いていたという意味で、続縄文時代と名付けられています。つまり、北海道には弥生時代がないのです。北海道で水田による稲作が行われなかったのは、寒さのために適していなかったという説や、狩猟の獲物や山菜・木の実が豊富であったため、わざわざ手間のかかる稲作を行う必要がなかったという説があります。また、本州が奈良時代になる頃から、北海道ではかまど付きの竪穴住居に住み、石器ではなく鉄製の道具を使うようになっていきました。土器の形状や文様も変化し、表面を木のへらなどで擦った跡が特徴的な土器を使っていたことから、この時代は擦文時代と呼ばれています。擦文時代は鎌倉時代の初め頃まで続きました。

約720カ所のくぼみを記録しています。この地図を見ると、現在の八軒・二十四軒付近に多くの竪穴住居のくぼみがあることが分かります。この辺りは、西区付近を流れていた川にたくさんのお堀類のぼり、土地が豊かなため、昔から多くの人が生活していたと考えられています。西区には、まだ発掘されていない遺跡が数多く存在するかもしれません。



【旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図】(一部抜粋)

黒い点が竪穴住居のくぼみを記したもの。

(所蔵) 札幌市埋蔵文化財センター

※ 北海道の時代区分は、考古学における一般的な時代区分を示しています。

本州の時代区分	年代	北海道の時代区分*
旧石器時代	2~30000年前	旧石器時代
縄文時代	9000年前 6000年前 5000年前 4000年前 3000年前 2300年前	草創期
		早期
		前期
		中期
		後期
		晩期
弥生時代	1300年前	続縄文時代
古墳時代		
飛鳥時代		
奈良時代		オホーツク文化期
平安時代	800年前	擦文時代
鎌倉時代		
室町時代		アイヌ文化期
安土・桃山時代		
江戸時代		